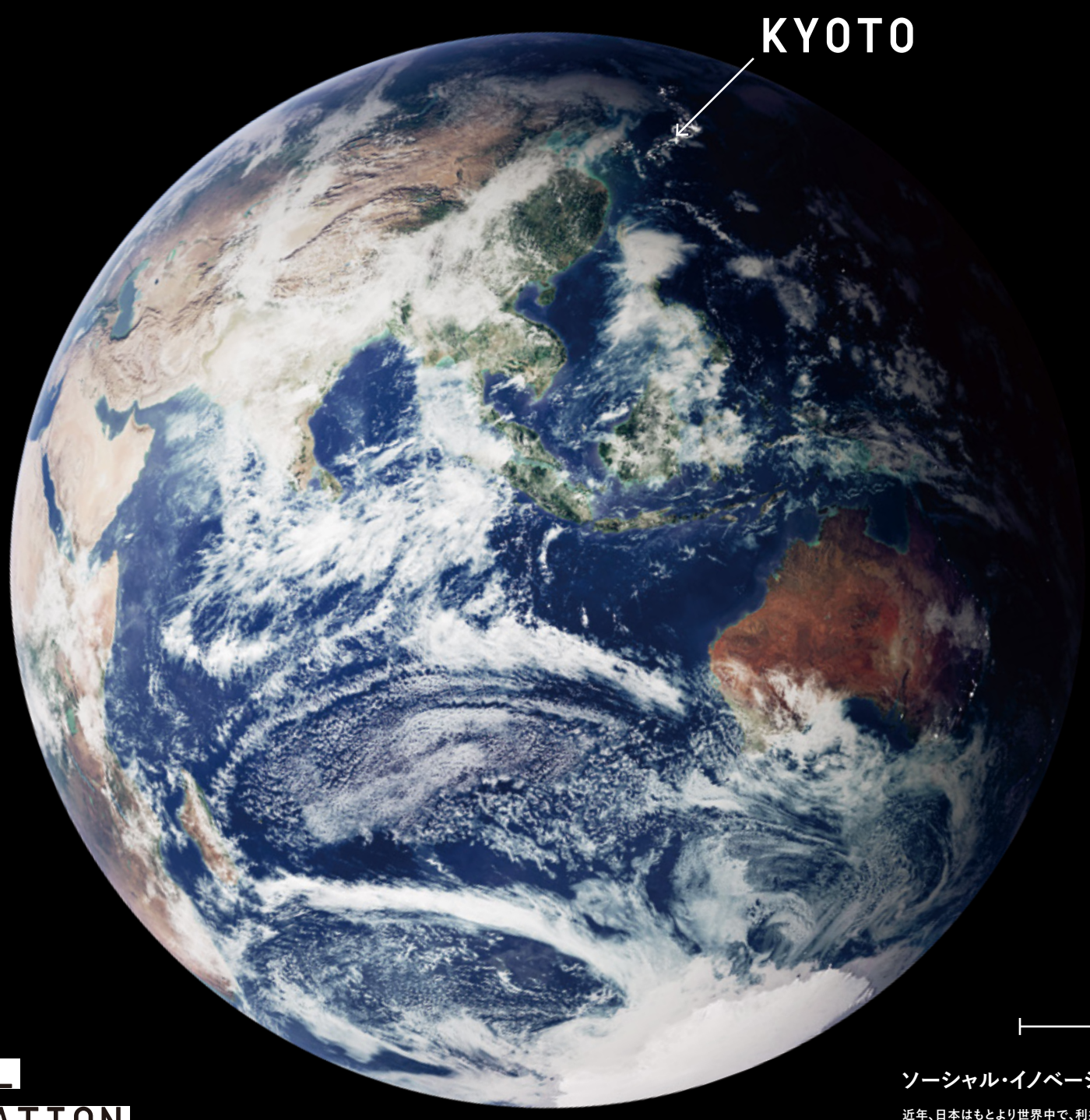
SILK JOURNAL

京都から紡がれる、健やかな未来



SOCIAL
INNOVATION
LABORATORY
KYOTO

京都市ソーシャルイノベーション研究所

ソーシャル・イノベーションとは?

近年、日本はもとより世界中で、利益や効率性のみを追求するのではなく、「社会的課題を解決する」と共に「社会的課題を生まないこと」を目指すビジネスや暮らし方が生まれています。私たち京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)は、そのような社会的課題に対する革新的な解決法を開発することがソーシャル・イノベーションであると考えています。

今、世界中のさまざまな個人や企業、ビジネスが、「健やかな未来」を目指して取り組みを始めています。

世界中が選択し始めた、健やかなビジネスや暮らし

世界のさまざまな場所で、社会的課題の解決以前に、そもそも課題を生まない仕組みのビジネスに投資する企業や団体が増え、それらによって生み出されたプロダクトやサービスを選択する消費者が増えてきています。

1. 大企業もサスティナブルな事業にシフト

世界的企業である「ユニリーバ」は、「サスティナビリティ[*1]」を事業に統合することが事業成長やブランド価値向上につながると明言。事実、同社のブランドの多くが平均を上回る成長率を実現しています。また、農作物原材料についても、2020年までに100%持続可能な形での調達を実現するという目標を掲げています。

2. 新たな認証制度や企業が台頭

アメリカの「B-Corp」「L3C」、イギリスの「CIC」、ドイツの「gGmbH」、フランスの「SCIC」「ESS」といったソーシャル・イノベーションを軸とした企業モデルの認証制度や、マルチステイクホルダーに配慮した意識の高い企業(コンシャスカンパニー)が台頭しています。[*2]

3. エシカル[*3]マーケットの拡大

アメリカの大手オーガニック・スーパーマーケット「Whole Foods Market」の売上高は1兆円(2017年3月現在)にも及びます。環境に配慮してつくられたオーガニックフードは、アメリカの一般家庭からの関心も高く、消費・流通の選択肢として広く浸透しています。

参照元：Sustainable Japan（https://sustainablejapan.jp/2015/05/17/unilever-brands/15568）

＊1 サスティナブル(sustainable)とは持続可能であるさま。ここでは企業と地域の持続可能を指す
＊2 経済産業省　海外における社会的企業についての制度等に関する調査報告書(平成27年3月)
＊3 エシカル(ethical)とは「倫理的な」「道徳的に正しい」といった意味の言葉

目に見えて表れ始めた、「サスティナブルカンパニー」の優位性

「持続可能な社会構築に貢献する企業」にシフトすることが「持続可能な企業経営に有益である」という裏付けが、国の調査や、実際に事業を行ってきた社会的企業の実績に表れ始めています。

1. 高まる日本の倫理的消費意識

消費者庁の調査[*4]によると、エシカルな商品・サービスの購入経験がある人は3割強、今後の購入意向を持っている人は6割強となっています。また、エシカルな商品・サービスの購入意向がありつつもまだ購入したことのない人は5割以上存在し、エシカル消費の今後の伸びが期待できます。

2. 社会的企業の方が安定性が高い

内閣府の調査[*5]によると、日本の企業の10社に1社が社会的企業であり、10人に1人が社会的企業で働いているとされています。また、別の内閣府の調査[*6]によると「中小営利企業において、社会的企業の方がそうでない企業と比べ、収益・雇用の両面で安定性が高く、平均的な規模も大きい」とされています。

3. オーガニックの商品で36年黒字経営

1980年創業の「株式会社サラダコスモ」は、1973年から「無添加・無漂白もやし」の栽培に挑戦。看板商品の「緑豆もやし」は1日に80万パックが全国に届けられ、従業員450名、売上高約120億円の企業に成長しています。このように、オーガニックフードが家庭に浸透してきている事例が増えています。

＊4 消費者庁　第9回「倫理的消費」調査研究会「「倫理的消費(エシカル消費)」に関する消費者意識調査」(平成29年)
＊5 我が国における社会的企業の活動に関する調査(平成27年)
＊6 平成27年度社会的企業の実態に関する調査研究(平成28年)

国連で掲げられた、世界を変えるための17の目標

国連サミットにて、2015年9月に「持続可能な開発目標SDGs」[*7]として17の個別目標が示され、企業のさまざまな事業活動が社会に与える影響について、より活発に議論が交わされています。

このように注目が集まる社会的企業ですが、日本では支援や取り組みが始まったばかり。英国・エコノミストの調査部門[*8]によると、日本のソーシャル・イノベーションの創出環境は世界23位。まだまだ経済力に見合った順位を獲得できていません。ソーシャル・イノベーションの創出環境を整えていくことが必要です。

＊7 「持続可能な開発目標SDGs」Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development (平成27年)
＊8 既存の枠組みを超えた新たなソリューションの模索(ソーシャル・イノベーション創出環境の国別比較)(平成28年)

SILKは、持続可能な社会の構築に貢献する企業「サスティナブルカンパニー」をサポートし、これからの1000年をみなさまと共に紡いでいきます。

自ら物事を進んで行う「町衆の文化」と伝統を守りながら、革新を繰り返し、1000年以上の歴史を紡いできた京都。日本全国、さらには世界から、ソーシャル・イノベーションの創出に挑戦する人々がこの地に集まってきています。京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)は、ソーシャル・イノベーションに取り組む企業や個人を応援する人々と共に、日本と世界の未来を切り拓いていく『京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想』を実現するために生まれた産業支援機関です。

「サスティナブルカンパニー」とは社会的企業やソーシャルビジネスを含む、持続可能な社会の構築に貢献し、ソーシャル・イノベーションに取り組む企業のこと。

SILKが提供する3つの場

学び育つ場

コンサルティングやイノベーション・キュレーター塾、先進企業ツアーなど学びの提供を通じて、ソーシャル・イノベーションに挑戦する人材育成に取り組んでいます。(→P5〜6)

つながる場

全国でソーシャル・イノベーションに取り組む人々が集うサミットや「働き方改革」をテーマにしたセッションを開催することで、思いを共にする人々を紡ぎ、新たなイノベーションの創出に取り組んでいます。(→P7)

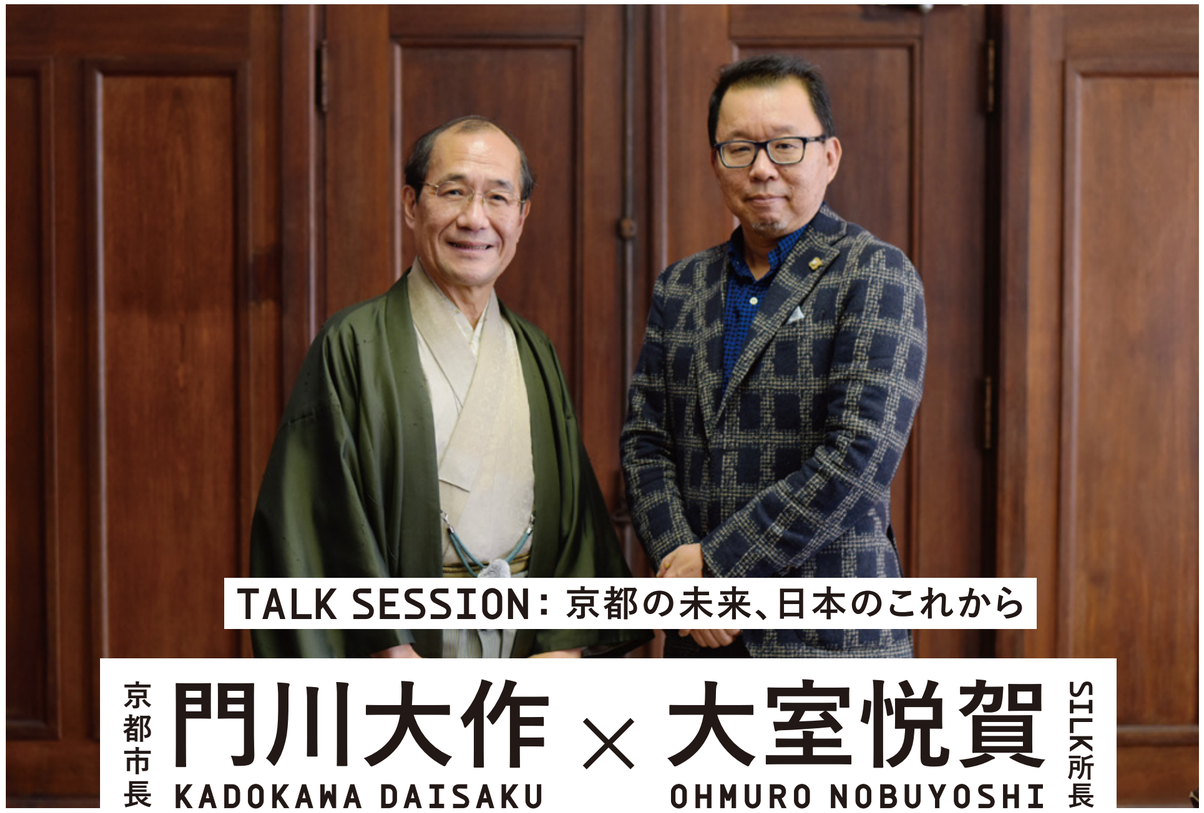
広がる場

社会に良い影響を与える製品・サービスを紹介するマップや、企業の認定制度などを通じて、消費や投資の選択肢を提示し、社会にソーシャル・イノベーションを広げようと取り組んでいます。(→P8〜10)

公益財団法人京都高度技術研究所(ASTEM)

京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)は、2015年に『京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想』の推進拠点として、「公益財団法人京都高度技術研究所(ASTEM)」内に開設されました。

「公益財団法人京都高度技術研究所(ASTEM)」は、科学技術の振興と地域社会の発展に寄与すると共に、中小企業に対する総合的な支援を行い、京都市内の中小企業の振興と地域経済の活性化を図る機関です。



TALK SESSION：京都の未来、日本のこれから

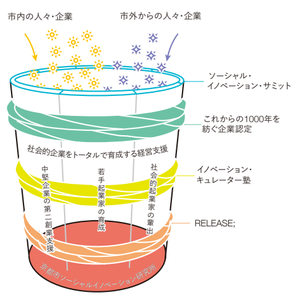
京都市長 門川大作 KADOKAWA DAISAKU × 大室悦賀 OHMURO NOBUYOSHI SILK所長

『京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想』の発表から2年。構想実現に向けて取り組む京都市ソーシャルイノベーション研究所（SILK）所長の大室悦賀が、京都市長門川大作氏に、これまでを振り返りながら、京都の未来、日本のこれからについて話を伺いました。

京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想とは

『京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想』は、ソーシャル・イノベーションに取り組む市民・企業・NPO・大学などの多様な組織や個人、それらを応援する人々が、社会的課題の解決や、そもそも課題を生まないための挑戦をすることで、「過度の効率性や競争原理とは異なる価値観」を広めていく構想です。京都から日本の未来を切り拓いていくことを目指しています。

イメージ図



多様な主体を生み、育て、誘致する「桶」のイメージです。桶を構成する「立板」部分は「社会的企業をトータルで育成する経営支援」を、立板を締める「箍（たが）」部分は「立て板部分の支援策と複合的に連携する支援策」を表しています。

これまでの2年を振り返って今思うこと

大室：『京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想』を発表してから2年が経ちました。さまざまなところで広がりを見せていますが、ここまでの市長のご感想はいかがですか？

市長：取り組みが広がっていることを実感しています。そして、特に3つの点が興味深いと思っています。1つめは、行政が前面に出ていないという点です。私はマニフェストにはソーシャル・ビジネスという言葉を書きませんでした。ソーシャル・ビジネスは行政が主導するものではなく、行政や「京都市ソーシャルイノベーション研究所（SILK）」は下支えに徹し、あくまで民間のみなさんが活躍することが肝だと考えています。そういった観点からすると、このジャーナルの内容もそうですが、「京都市が何をしたか」ではなく、「社会的企業が何をしたか」が重要であり、京都市が前面に出ていない点では、ぶれずに進められているのではないかと思います。

そして2つめは、多くのつながりが生まれていることです。コラボレーション事例（11～12ページ）が顕著ですが、人と人、組織と組織のつながりによって新しいイノベーションが生まれていることがわかります。「イチバンボシギフト」（10ページ）などは、区役所と社会的企業がつながった良い例だと思います。

また、民間の主体的な取り組みによって提供される学びの場もつながりを生んでいます。例えば、「公益財団法人信頼資本財団」が主催している「A-KIND塾」（6ページ）では2年間で40名の社会起業家が学ばれ、羽ばたかれました。5年経てば、これが100名になるわけです。さらに、社会起業家を支援する担い手を育てる「イノベーション・キュレーター塾」（5ページ）も、2年間で30名のイノベーション・キュレーターが育まれてきました。これから、彼らのサポートによって育つ社会起業家も続々と出てくるでしょう。このように、新たなコミュニティが生まれ、それが拡大していくのは素晴らしいことですね。

そして3つめは、具体的な成果が出てきつつあることです。内閣府の調査でも、日本の企業の10社に1社が社会的企業であると報告されていますが（出典：「平成27年 我が国における社会的企業の活動規模に関する調査」）、京都市のソーシャルビジネスに関する事業に、5年間でのべ22,000人の方々が参加され、ソーシャル・イノベーション教育に取り組む京都の大学の数も3倍になりました。そういった具体的な成果が嬉しいです。「これからの1000年を紡ぐ企業認定」を受けた企業についても、「Dari K」を例に挙げると、インドネシアの農家に技術指導を行うことで、カカオ豆の取引価格を3割上昇させたと聞いています。これは本当にすごいことです。社会的課題への影響を企業が常に意識しているというのは、大変心強く感じています。

ソーシャル・イノベーションが文化として広がるために

大室：一昨年・昨年と開催したソーシャル・イノベーション・サミットが京都から水俣に伝播するなど、他の地域にも広がりを見せています。また、京都に文化庁が移転しますが、私は「文化は移動して初めて文化になる」と考えています。ソーシャル・イノベーションが京都から文化として全国に広がるために必要なこととは何でしょうか？

市長：文化庁が京都へ全面的に移転することを受けて、私たちは大きな役割を果たさなければなりません。その時に必要なのは、「文化の視点」で京都市の全ての政策を再点検することです。文化を横串にして京都を活性化できれば、文化の力で全国津々浦々を元気にしていくこともできると思っています。

ソーシャル・イノベーションの分野についても同様です。京都には明治維新後、地域の方々が、家のかまどの数に応じてお金を出し合って、子どもたちが学ぶ学校をつくった「かまど金」に代表される寄付文化、人づくりの文化が根付いています。そんな京都だからこそ、これからの1000年を展望し、100年を見つめ、10年を考える価値観や取り組みを全国に発信していけると思っています。

そして、ソーシャル・イノベーション・サミットには、32都道府県103市区町村から422名の方に参加していただきましたが、京都だけが活性化するのではなく、京都とつながる全国の市区町村と一緒に「文化で元気になる」ことが重要だと考えています。

なお、2017年3月、第2期の「京都文化芸術都市創生計画」を策定をしたのですが、そこに「社会課題を解決するソーシャルデザインにおける文化芸術の活用により、芸術家の活躍の場を拡大する取り組み」を掲載しています。このあたりの取り組みにも、「京都市ソーシャルイノベーション研究所（SILK）」の活躍を期待しています。

牽引する山の頂をつくり、同時に裾野を広げる

大室：これまで、「IKEUCHI ORGANIC」といった先進企業の誘致や「これからの1000年を紡ぐ企業認定」などによってソーシャル・イノベーションを牽引する「山の頂」をつくってきました。これからさらに「山の頂」を増やしていくために、今後必要な取り組みとは何でしょうか？

市長：1つは、さらにフラッグショップ（旗艦店）を増やすことだと思います。「IKEUCHI ORGANIC」は新生児家庭にタオルをプレゼントするといった社会貢献のほか、京都センチュリーホテルでタオルが採用されたり、函谷鉾デザインのタオルハンカチを販売したり、京黒紋付の染め技術を用いたバスタオルを開発したりと、「京都市民になろう」という努力をしてくださっています。感謝すると共に、こういった企業を増やすために「京都に社会的企業のフラッグショップを創出し、全国を元気に」というメッセージをもっと発信していきたいです。そのためには、不動産会社や金融機関と連携して互いの顔が見えるゆるやかな受け入れ態勢を築き、安心して京都に出店できる環境づくりも必要です。

もう1つは、京都の企業にソーシャル・イノベーションという文脈を知っていただくことです。「中小企業のまち」である京都においては、100年以上続く老舗も多くあります。そんな老舗企業は伝統を守るだけでなく、イノベーションを起こし続け、持続可能な経営を続けてこられています。つまり、京都の老舗企業は当然のようにソーシャル・イノベーションに取り組んでこられているはずなのです。そのことをもっと多くの京都の企業に知っていただき、自信を持ってもらいたいと思います。大室所長にはこれからも多くの京都の経営者のみなさんに会っていただき、より一層、そのお考えを伝えていただきたいです。宜しく。

大室：「山の頂」をつくることと同時に、その担い手や消費者を育成し、「山の裾野」を広げる必要もあります。「山の裾野」を広げるために、今後必要な取り組みとは何でしょうか？

市長：イノベーションを生み出すためには、行政内部における縦割りはもちろんのこと、企業や各種団体といったさまざまな組織の壁をも取り払い、丁寧な対話を重ねることが重要であると考えています。これまで「京都市ソーシャルイノベーション研究所（SILK）」では、産業支援の分野だけでなく、教育・子育て・消費者問題・環境問題などあらゆる分野で政策を融合していただいていますが、引き続き、さまざまな分野で融合を進めていただきたい。そのためにも、連携できる民間パートナーを増やしていくことが重要ではないかと考えています。

大室：これまで市長と何度も対話させていただく中で、「働き方改革」「大量消費型の生活スタイル」「女性が自分らしく働くための環境整備」「個家族化」「空き家問題」といった横断的な行政分野の課題を提示いただきました。私は、そこに社会的企業が活躍できる分野の「重なり」を強く感じています。行政と社会的企業が、この重なる部分で役割を分担できたらいいなと思っています。

市長：人口減少社会において、「人間らしく、文化的な生き方への改革」がまさに求められています。利便性や今の快適性を追求してきた我々のライフスタイルの転換点ですね。10年後、100年後にどんな社会になっているのか、何がこれから必要になるのか見つめ直してみると、そこには、ソーシャル・イノベーションが欠かせません。大室先生がおっしゃる「重なり」の部分で、様々な成功事例を積み重ね、共有しながら次の段階にバージョンアップしていきたいですね。

大室：京都の人が京都の人らしく、文化を大切にしながら、自分らしさを表現するような社会・都市になれたら素敵ですね。

市長：まずは京都に住む人・働く人が、知恵を重ね、人間としての生き方・働き方を見直し、豊かな文化・芸術に触れ、楽しみ、家族や地域の絆を大切にする。そんな生き生きとした社会を創りたいですね。そして、そのような取り組みが全国に広がることで、文化的で持続可能な社会につながるものと確信しています。共々に夢をもって。

SILKの取り組み

学び育つ場

未来をつくる人材を社会に実装する

コンサルティングやイノベーション・キュレーター塾、
先進企業ツアーなど学びの提供を通じて、
ソーシャル・イノベーションに挑戦する人材育成に取り組んでいます。

ビジネスの手法で社会的課題を解決する人材を育てる

イノベーション・キュレーター塾

「イノベーション・キュレーター」とは、中長期的な観点から組織の社会性を経営者と共に考え、社会的課題解決を伴うビジネスを継続できるようサポートする伴走者のこと。高津玉枝氏を塾長に迎え、これまで金融機関や民間企業の会社員、中小企業診断士や社会起業家といった31名の「イノベーション・キュレーター」を養成しています。

初めて構想を伺った時、「まさにこれからの時代に必要な人材育成だ」と感じたものの、明確な概念も前例も皆無という中で、どのように塾を牽引していくのかと戸惑い、何を与えたらよいのか悩みました。見出した結論は、塾生が「イノベーション・キュレーター」になるための変化を自らの力（気づき）で起こさなければキュレーターにはなれないということ。そして塾の役割は、その変化を起こすきっかけをつくることでした。塾では時代の先端を走るゲストスピーカーをお迎えしますが、話を聞くだけでなく、ディスカッションで本質に迫ります。また、塾生のプロジェクトも相互に遠慮なく突っ込みを入れてブラッシュアップしていきます。入塾当初は受け身だった塾生たちが、今では次々と新たなチャレンジを行い、唯一無二の仲間を得て輝いています。

株式会社福市 代表取締役社長
イノベーション・キュレーター塾 塾長
高津 玉枝さん

VOICE & ACTION 塾生の声とその後のアクション

大切な行動指針を得ることができました。

塾では「俯瞰する」「おもしろくする」「ルーツに根差す」「ビジョンを描く」「セクターを横断する」「巻き込む」などの大切な行動指針を得ました。今は「狩猟を通じた人と自然の共生」や「食の持続可能性」をコンセプトにした、小さなお店を開く準備をしています。

ボンジュール現代文明 主宰
中小企業診断士
松下 晶さん

物事の捉え方が変化し、良い影響が出ています。

多様な角度から事業例を深く掘り下げるワークにより、物事の捉え方に変化が出てきます。実際の事業では大小の課題が出てきますが、新しい手法や広くアイデアを出せるようになり、現在は目標に向かって焦らずアプローチしています。

有限会社エスアールフードプロデュース
代表取締役
齋藤 三映子さん

社内の「ウィルス役」として日々活動しています。

私は仕事を通じて「持続可能な社会づくり」に貢献していきたいと考えています。イノベーション・キュレーター塾の終了後は、学んだことを同僚たちに伝える「ウィルス役」として、日々草の根活動を行っています！

京都信用金庫
企業成長推進部
満島 孝文さん

まず一歩、動き出すことが大事だと気づきました。

「まず動き出す」。想いをカタチにしていくその一歩を、失敗しながらでいいから踏み出していくことが重要だと気づかされました。生産者と消費者という垣根を越えて、互いに支え・支えられる仕組みづくりに踏み出します！

京都生活協同組合
事業戦略室
伊倉 真弓さん

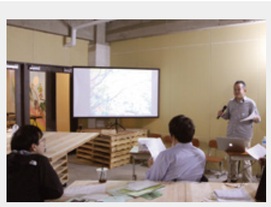
SOCIAL IMPACT

これまでにイノベーション・キュレーター塾生が「身につけた学び」を提供した企業数・人数

376企業

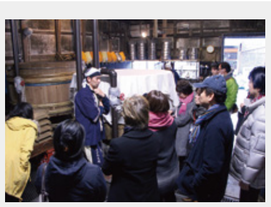
651人

OTHERS その他の取り組み



SILKのダイアログ

課題を抱える企業をゲストに迎え、解決策やイノベーションをテーマにダイアログ（対話）を行う招待制イベントを開催。SILKのパートナーにもお越しいただき、コラボレーションやイノベーションを加速しています。



社会（化）見学

ソーシャル・イノベーションに取り組む先進企業のツアーを行っています。リーダーの決意や働いている人々の雰囲気、製品・サービスの質などを体感し、「サスティナブルカンパニー」を学ぶ場として、これまで120回以上開催し、6,000人以上の方々に参加していただきました。

民間の取り組み

公益財団法人信頼資本財団 理事長
A-KIND塾 塾長
熊野 英介さん

平成21年以来の支援を通して、社会における価値をいかに生み出しながら事業を持続させるか、これを模索する方法を知らぬままに苦しんでいる社会的事業家が多いことを痛感してきました。そこで、一昨年「A-KIND(あかいんど) 塾」を開講したのです。日々、目の前の人とお金に向き合う事業というものを、成功事例研究からなる書物で学び取ることは困難で、実践している事業家から直接学ぶに越したことはありません。成功事例はその瞬間から過去のものになるからです。当塾で、私は40年の歳月を重ねてきた事業家として、年毎の塾生20名と向き合っていますが、自分自身も過去の成功事例に囚われることなく、塾生と共に未来を生きる事業家として講義をしています。昨年までに2期40名が巣立ち、塾生同士や財団コミュニティとの事業のつながりやサポートが活発化しています。

VOICE & ACTION 塾生の声とその後のアクション

「mumokuteki」リニューアル・オープン。

これからの時代の、「食べる・着る・つくる・使う・知る・感じる」にまつわる時間と空間を提案する「mumokuteki」。2016年11月、「いきるをつくる」をコンセプトに、リニューアル・オープンしました。他の塾生との取り組みも広がっています。

京北町で、塾での学びと塾生との共創によるオープンソリューションコミュニティ事業を始めます。仲間を広げながら自信・勇気・つながり・エンパワーを育み、おもしろい生き方を生み出していきます。

株式会社ヒューマンフォーラム 会長
出路 雅明さん

目に見えない価値から四方良しのビジネスを導く

A-KIND塾

「A-KIND(あかいんど)塾」は、「KIND= 親切な・優しい・思いやりのある」という目に見えず耳にも聞こえない、けれど人の心に息づく価値を形にし、売り手良し、買い手良し、世間良し、未来良し、という「四方良し」の社会的事業を経営していく力を養う塾です。利益を生むための原資となる「信頼関係」を積み重ね、価値を生みながら事業の生存確率を上げ、事業を持続させる力を持つ社会的事業家を増やしていきます。

運営 公益財団法人 信頼資本財団

人と人や、人と自然のつながりが豊かで、生命の尊厳が守られる社会、すなわち人間関係や自然との関係が資本になる信頼資本社会を目指し、これに資する社会的事業を支援しています。その方法は、国内で他に類のない無利子・無担保・無保証による融資や、認定団体の活動資金・応援者集めを行う共感助成です。また、社会的事業家を育成する社会事業塾や、公務員の方を対象とした未来設計実践塾、相互扶助関係を育む共感コミュニティ事業を実施しています。

SOCIAL IMPACT

信頼資本財団のコミュニティ

融資・助成団体	60団体（2016年末）
社会的事業を応援する知恵・知見登録者	244名
財団メンバー総数	30名

OTHERS その他の取り組み

パタゴニア 京都

ワークショップ「マップを考えよう」

パタゴニアはサプライチェーン全体で環境問題や社会的な問題の解決に取り組んでいます。四条通りにある京都店は2016年10月にリニューアル。3階イベントルームでは、企業理念と共感性の高い催しが開催されています。

京都流議定書

京都流議定書2016

日本の本来の強みである「数値化されない価値」を研究し、資産を分析。その強みを再確認して価値の創出を試みる催しです。2008年から毎年開催。2015年より、一部の企画をSILKと連携して開催しています。

ル・クロ ラボ 京都

フレンチレストラン「ル・クロ」オーナーシェフの黒岩功さんが代表を務める「一般社団法人FUKURO」が経営する就労移行支援事業所・就労継続支援B型事業所。「食と障がい者の事業のつくり方」講座が開催されました。

京都大学経営管理大学院

京都大学経営管理大学院では、ソーシャル・イノベーション事例分析などを盛り込んだ講座「インテグレイティド・ホスピタリティ教育プログラム」の開発が進められています。

京都工芸繊維大学大学院

京都工芸繊維大学大学院では、社会的課題を社会との相互作用で解決するための持続的な仕組みをデザインする「ソーシャルインタラクションデザイン」を開講しています。

京都府立京都すばる高等学校

高等学校でもフェアトレードを学ぶ機会が生まれています。昨年30回目を迎えた販売学習「京都すばるデパート」では、「有限会社シサム工房」が商品協力企業として参加しました。

DATA

大学・高校などでのソーシャル・イノベーションが加速中

京都市内の大学でソーシャルイノベーションに関連する取り組みを行っている学部・研究科・研究施設が増加しています。

5（2010年） → 18（2017年）

※京都市調べ

堀川高校がソーシャルビジネス企画コンテストで最優秀賞を受賞

高校生のためのソーシャルビジネス企画コンテスト「Social Innovation Relay 2015」で、京都市立堀川高等学校の八幡真由さんと倉田菜奈子さんのチーム「sunflower」が最優秀賞を受賞しました。

つながる場

イノベーションを起こす関係を紡ぐ

全国でソーシャル・イノベーションに取り組む人々が集うサミットや
「働き方改革」をテーマにしたセッションを開催し、
思いを共にする人々を紡ぎ、新たなイノベーションの創出に取り組んでいます。

SOCIAL IMPACT

ソーシャル・イノベーション・サミットに
参加した自治体・個人は

32都道府県

103市区町村

422名

関係を紡ぎイノベーションの潮流をつくる

ソーシャル・イノベーション・サミット

地域や社会における課題に対し、革新的なアプローチで効果的・持続的なソーシャル・イノベーションに取り組んでいる方々に全国からお集まりいただき、サミットを開催。2016年は「モテる公務員」をテーマに、地域に飛び出し活躍する全国の公務員をゲストに迎え、共に切り拓く未来について語り合いました。2016年10月には熊本県水俣市で「ローカル・ビジネス・サミット」が開催され、全国への広がりも生まれています。

持続可能な未来づくりには、多様な人々による立場を越えた共創が必要です。私たちも環境まちづくりの経験を活かし、みなさんと共に行動して参ります。

水俣市長
西田 弘志さん

OTHERS その他の取り組み

いきいきと生きていくためのあり方を考える

ここからうまれるイノベーション 連続セッション

「子連れ出勤」という就業スタイル ～キャリアを活かす事業戦略を考える～

つながる雇用を実現します！ ～世界一明るい視覚障がい者 成澤俊輔～

オヤノミカタ交流会

「有限会社モーハウス」代表の光畑由佳さんや「NPO法人FDA」理事長の成澤俊輔さんを招き、「性別や障害を超えて、生き方と働き方を分断させずに自分らしくいきいきと生きていくためのあり方」を広げる連続セッションを開催しました。また、「株式会社オヤノミカタ」と共催し、「親の味方」というテーマに親和性の高い企業・団体をお誘いして、出会いと対話から新しい連携を生み出す場を展開。「今, ここから」イノベーションが生まれています。

QUESTION 企業のみなさん、京都へ来てみてどうですか？

IKEUCHI ORGANIC KYOTO STORE

日本でも最も歴史があり、そして世界が最も憧れる京都でお店を展開することは、日々、緊張と勉強の連続ですが、最高の充実感を得ています。

IKEUCHI ORGANIC 株式会社
代表取締役
池内 計司さん

“0から6歳の伝統ブランドaeru” 京都直営店「aeru gojo」

地域の方々や、行政・金融機関・メディア・職人さんなど、みなさまが親身になって支えてくださっています。京都に「和える応援団」がいてくださるようで、とても心強いです。

株式会社和える
代表取締役
矢島 里佳さん

とろさば料理専門店SABAR

サバ専門店で起業して10年。サバ文化が根ざす京都でのビジネスを夢見ていました。SABAR烏丸店は満を持して出したお店です。地元のお客さまにも足を運んでいただいています。

株式会社 SABAR
代表
右田 孝宣さん

サムライ剣舞シアター

芸事には厳しくも理解がある方が多いのでありがたく感じています。また、信頼を拠り所にした商文化が根付いているので、お客さんや生徒さんともいいお付き合いができています。

サムライ剣舞株式会社
代表
鈎 逢賀さん

DATA 参加者アンケート

Q. 子連れ出勤はありだと思う？

思うと答えた人が **92%**

SOCIAL IMPACT

NPO法人FDAの実績

障がい・引きこもり・生活保護・ホームレス・LGBT・若年性認知症など、30種類以上の就労困難を抱える方々の、各人の特性に合った雇用を創出。

その数、のべ100社において

34業務 **87**作業

就職後1年以内離職率は

0%

広がる場

健やかな消費や投資の選択肢を広げる

社会に良い影響を与える製品・サービスを紹介するマップや、企業の認定制度など
消費や投資の選択肢を提示し、
社会にソーシャル・イノベーションを広げようと取り組んでいます。

発行｜ソーシャルプロダクトを普及させる会＝扇沢友樹（株式会社めい）／小野邦彦（株式会社坂ノ途中）／吉野慶一（Dari K 株式会社）／西村和代（カラーズジャパン株式会社）／大東利幸（大東寝具工業株式会社）／大室悦賀（京都産業大学大室研究室） 協力｜京都市ソーシャルイノベーション研究所 プロジェクトマネージャー｜前田展広 編集｜赤司研介（SlowCulture） デザイン｜サノワタル（いろいろデザイン） 印刷｜株式会社シーズクリエイト

健やかな消費の選択肢を提示する

京都市ソーシャルプロダクトMAP

ソーシャルプロダクトとは、その商品を選択することが「健やかな未来」につながる製品やサービスのこと。京都市には、このソーシャルプロダクトを扱う企業や、そもそも課題を生まないビジネスに取り組む事業体が集まってきています。このマップでは200に及ぶ事業者を掲載。その中から各号18の事業者を詳しくご紹介しています。

SOCIAL PRODUCT MAPの作り方

1. みんなの推薦を集めよう

さまざまな分野の事業者・消費者・主婦の方などに、おすすめのプロダクトやサービスについて聞いて回りましょう。

2. Google MAP にマッピング

Google MAPで簡単に企業や店舗の所在地をマッピングすることができます。紙面に起こす時にMAPデータを抽出することも可能です。

3. 寄稿してもらおう

紹介文を寄稿してもらい、紙面にするために必要な情報・データを集めましょう。制作に関わってもらうことで、事業者が発行後の設置先・協力者になってくれることもあります。

MAPに掲載してほしい方、自分の地域でもMAPを作りたい方は、
以下メールアドレスまでお気軽にご連絡ください。

social.products.in.kyoto@gmail.com

VOICE 事業者や利用者の声

学生のインターン先を探す情報源になっています。

マップに載っている企業をインターン先に選ぶ学生や、エシカルをテーマにした学生のイベントで協力店を探す基準になっています。

京都ベレット町家ヒノコ
代表取締役
松田 直子さん

掲載企業同士のつながりも生まれています。

マップが人気で、すぐに店頭からなくなるのが悩みの種です。掲載企業さんを訪ねたり、逆に訪ねてもらったりと、つながりが生まれています。

D&DEPARTMENT KYOTO
by 京都造形芸術大学 店長
小原 龍樹さん

友人と新しい京都巡りを楽しんでいます。

友人と共にマップを使って京都巡りをしています。京都の創造的な企業や場所に伺い、楽しみながら新しい価値を学んでいます。

NPO 法人
職員
肥後 祐亮さん

買い物をする良いきっかけになってます。

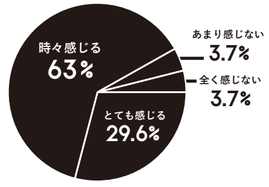
何に価値を感じて、何にお金を使って、どんな人とつながっていきたいかを考えながら買い物をする良いきっかけになっています。

主婦
左京区在住
山本 安佳里さん

QUESTION

マップ掲載企業のみなさんに聞きました

この3年ほどで、倫理的消費を意識したお客さまが増えたように感じますか？



これからの1000年を紡ぐ企業認定

この認定事業では、社会的課題をビジネスで解決したり、社会的課題を生まない新しい商品やサービスあるいはシステムを生む、ソーシャル・イノベーションに取り組む企業を認定。企業のステージやニーズにあった伴走型支援を行っています。

5つの認定基準

1. 事業の社会的意義と経営者の人間性
2. ビジネスモデルの新規性と優位性
3. 市場性（外部環境の視点）
4. マネジメント力
5. 財務力・収益性とキャッシュフロー

より良い未来を創造する革新的な手法と、マルチステイクホルダーに配慮した経営を実現する「四方良し」の視点を軸に、5つの項目から評価を行っています。

2015年度認定企業

株式会社和える

「和える」という概念や行為によって生まれる相互作用を大切にしながら、職人と日用品を生み出す「0から6歳の伝統ブランドaeru」など、次世代に伝統をつなげる仕組みをつくる事業を行っています。創業20年を迎える2031年までに、約10の事業の立ち上げを構想。文化が経済を育て、経済が文化を育む、そんな文化と経済が両輪で回っている社会を目指しています。

SOCIAL IMPACT

- aeruの商品を15の都道府県、40以上の工房と連携し製作
- 子どもたちが日本の伝統に出逢える環境を生み出した
- 直営店のイベントで、職人や日本の伝統と出逢う場を創出

Dari K株式会社

インドネシアのスラウェシ島で暮らすカカオ農家に技術指導を行い、できあがったカカオを適正な値段で買い取ってチョコレートに加工し販売。農家・自社・消費者が嬉しいトリプルウィンの事業を行っています。その他、途上国の内側からビジネスをつくることで、努力がきちんと報われる社会を目指しています。

SOCIAL IMPACT

- インドネシアの契約カカオ農家に品質向上や生産性向上の技術指導を通して、所得を約30%増加させた
- 取り組みに賛同した他社への原料販売が拡大し、買い取り農家数は倍増
- 気候変動に対する適応策の開発・普及により生産者の脆弱性を改善

IKEUCHI ORGANIC株式会社

関わる全ての人とオーガニックな関係をつくるために、最大限の安全と最小限の環境負荷を追求するテキスタイルカンパニー。メイン商材であるタオルをはじめ、マフラー・ベッドリネン・インテリアファブリック・アパレル素材などのオーガニックテキスタイルを企画・製造・販売しています。

SOCIAL IMPACT

- タンザニア(原綿生産地)に毎年1本の井戸を寄贈。約500世帯の生活用水を賄い、生活環境向上に寄与
- 製織に風力発電のグリーンパワーを使用。年間約100tCO_2排出抑制に貢献(2015年度実績)
- 環境負荷を低減する染色手法を採用。排水は12ppmまで濾過した状態で処理している

有限会社シサム工房

インド・インドネシア・タイ・ネパール・フィリピンの5カ国を拠点に活動する11のNGO団体と協力しながらフェアトレード事業を展開。衣類や雑貨をはじめとするフェアトレード製品を、直営店や全国約350の取引先・ショップを通じて生活者のもとへ届け、人々が自らの暮らしを見つめ直す機会を育んでいます。

SOCIAL IMPACT

- アジア5か国のフェアトレード団体に継続した注文をすることで、約1,000人の生産者の生活向上を支えている
- フェアトレードの現場に5年間で2.5倍の販売額分の仕事を提供
- インドの伝統的な手刺繍を生かして日本の市場に合う商品を開発。伝統を継承し、担い手200人の女性の暮らしを支えている

株式会社坂ノ途中

農薬や化学肥料を使わない農業に取り組む新規就農者をネットワーク化し、まとまった数を提供できる仕組みを構築。京野菜をはじめとする伝統野菜から、珍しい西洋野菜まで、年間400種類以上のラインナップを提供しています。環境負荷の小さな農業を広めて「未来からの前借り」をしない社会を目指しています。

SOCIAL IMPACT

- 環境負荷低減をキーメッセージにした通販で定期宅配顧客1,000軒超
- 販路不足に悩むことが多い新規就農者をパートナーとした事業を構築
- 毎年50～60名の就農検討中の方を自社農場で受け入れ

株式会社食一

「食を通じて社会を愉快に」がコンセプト。漁獲量が少なく、これまで市場に出回ることのなかった「実はうまい」珍魚を流通させることで、小売店には目玉商品を、漁港には新たな売上をもたらし、漁師の所得が向上することによって新たな雇用が生まれる状況づくりに取り組んでいます。

SOCIAL IMPACT

- 漁港で安い値段で取引されていた魚に10倍以上の値段がついた
- 今まで見たこともない魚を食べるという新たな食文化が形成された
- 漁師の魚の扱いに対する意識が向上してきている

2016年度認定企業

株式会社アラキ工務店

京町家の伝統的な大工技術や、歴史的な町並みを後世に引き継ぐことを目指して事業を行っている木造住宅専門の工務店。古材活用や、職人の育成・雇用を行うほか、職人を抱える工務店を増やすネットワークの展開も行っています。

SOCIAL IMPACT

- 会社設立以来、伝統木工法に携われる20代の大工を37名育成
- 2001年以降、建物全体の構造改修を行なった京町家が250軒を越えた
- 2001年以降、3年以内に解体される予定の戦前の住宅を180軒存続させた

株式会社フラットエージェンシー

適切な住居や暮らし方を通じて、「まちづくり」と「地域社会」の発展に寄与する不動産会社。開業時より、留学生に対する連帯保証人不要保証システムを提供し、外国人社員による住まい方のガイダンスなどを実施。平成12年の借地借家法改正以降は京町家の保全・再生に注力し、これまでに200棟以上を手がけています。

SOCIAL IMPACT

- 美術学校だった建物を15人の若手職人が集まる施設にリノベーション
- 京町家の保存・改修に携わり、これまで250棟を再生
- 年間400名の外国人留学生に部屋を紹介

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

「次世代に対する責任」の啓発と「世界平和」の実現を目指し、カンボジアでの地雷撤去支援や子ども兵を含む紛争被害者の社会復帰支援、コミュニティ開発を展開。講演ではのべ10万人に想いを届け、ファンドレイジングにより大きな国際協力活動の推進を生み出しています。

SOCIAL IMPACT

- カンボジアの地雷原、39.5万平方メートル以上の土地の安全確保を行った
- ウガンダの元子ども兵の平均収入が、支援開始前から約55倍に増加した
- 京都市内で、子ども兵や地雷を題材とした平和教育をのべ7,500名に行った

株式会社ヘルプ

無農薬や減農薬、有機栽培などで育てられた農産物・無添加食品・環境負荷の小さい日用雑貨品などを取り扱うオーガニックスーパー。販売者・生産者・消費者の3者が、できる限り顔を突き合わせて交流する場を設けることで、オーガニック食品などをより一般に広げ、それが当たり前になる社会を目指しています。

SOCIAL IMPACT

- 消費者が自然環境保全や食の安全に関心を持つための情報発信・交流の場となってきた
- 生産者が自身の健康を守り、安定収入を保証されるような取引を行ってきた
- 安全で伝統的な日本の食文化の継承のお手伝いをしてきた

GOOD BUSINESS>>>GOOD ECONOMY

RELEASE;© リリース

2013年より始動したオープン・イノベーションプログラム「RELEASE;」は、現在まで5,000名を超える対象者へ講演やワークショップを重ね、「持続可能な社会を実現するための経済活動と市民社会への移行」を駆動する生態系を国内外各地に生み出しています。

SOCIAL IMPACT

「GOOD BUSINESS >>> GOOD ECONOMY」のコンセプトに共感し、変化へのアクションを起こす人の輪は年々広がっています。

開催および協力自治体数… 6　開催および協力大学数…… 8

開催および参加企業数… 54　参加人数…… 約5,500人

VOICE & ACTION 参加者の声とその後のアクション

地域に求められる医療を地域と共に

「RELEASE;」に参加して視界が開け、地域の可能性や機会を実感できました。医療や介護の枠を跳び越え、地域にある多様なネットワークと連携した新事業創造を検討しています。

川村義肢株式会社
取締役
羽佐田 和之さん

地域の未来に貢献する四方良し経営を実践

これからは水俣病という公害から再生した不知火海独自の地域経済圏を舞台に、美しい食の風景をつくり続けるため、リブランディングに取り組んでいきます。

株式会社福田農場ワイナリー
代表取締役
福田 豊樹さん

100年先まで愛される京都大丸となるために

大丸創業300周年を迎えられたのは、理念である「先義後利」の実践と共に、時代にあった挑戦を続けてきた結果と再認識しました。次の100年への第一歩として、挑戦に値するビジネスアイデアの考案を進めています。

株式会社 大丸松坂屋百貨店本社 業務本部
業務推進部（大丸京都店担当）人事担当スタッフ
中澤 一郎さん

アジアでサスティナブルな農業を広げる

貧困削減のためには現地の方と同じ目線に立つことが全てだと考えてきましたが、「RELEASE;」に出会い、未来を見据えた提案こそが「よそ者」の役割だと気づきました。

株式会社坂ノ途中
海外事業部
安田 大志さん

社会が良くなるデザインを生み出す

そもそもそれぞれの立場で感じていることは正解で、未来に対する望みを持ち、発言をしてもいいということ。そして、これからの未来は私たちのものだということに気づけました。

NPO法人スマイルスタイル
アシスタントデザイナー
橋本 純さん

COLLABORATION RELEASE；から生まれたコラボレーション事業

イチバンボシギフト
THE 1st STAR GIFT

イチバンボシギフトは、「将来世代へ豊かな自然環境や地域の未来を紡いでいくこと」を目指す社会的企業・行政・地域コミュニティが協力し、立場を超えて「誕生したばかりの母子（ボシ）」を歓迎するギフトを、無償で贈る事業です。

No.01 中京区役所 × 株式会社坂ノ途中

「生まれたての赤ちゃんにこそ、農薬や化学肥料に頼らず100年先も続く農業を目指す生産者さんのお野菜を届けたい」と、出生届を出した家庭へ、旬の野菜の詰め合わせギフトを贈っています。

深川 光耀さん

京都市文化市民局
地域自治推進室
まちづくりアドバイザー

想いがあっても手を結びえなかった、区役所と社会的企業の連携のきっかけを与えてくれるものでした。新しい試みの風を吹かせてくれた「RELEASE;」の「やさしい外圧」に感謝です。

No.02 山科区役所 × IKEUCHI ORGANIC株式会社

「やましなお誕生おめでとう事業」を通じて、「風力発電でつくられた100%オーガニックのベビーブランケット」と「タオルができるまでを綴った絵本」限定100セットを無償で届けています。

幸田 千代子さん

山科区
民生児童委員

今まで赤ちゃん訪問活動を通じて、私は53組の親子さんにお会いしました。17組の親子さんが「ティーカップサロン」に参加され、お母さまが楽しく交流を深めておられる様子を見るたびに、「訪問活動をして良かったなあ」と思います。

OTHERS その他の取り組み

MAKING OUR MARKET
メイキング・アワー・マーケット

「MAKING OUR MARKET」は「京都市消費生活総合センター」とSILKのコラボレーション事業です。2016年は、「みんなのマーケットを考える」をテーマに、「京都市ソーシャルプロダクトMAP」に掲載される13の事業者さんと共に、市内のお店を教室にした学ぶ場を展開。2017年は、「素材から学ぶくらしの学校」と題し、小学生を対象にしたものづくりと料理を通じた消費者教育プログラムなどを実施しました。

COLLABORATION

『京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想』に端を発した、さまざまなコラボレーションが生まれています。

01 有限会社中村ローソク × 株式会社和える

和ろうそく職人のトークイベントを開催

2016年10月、植物性原料のみを使用した昔ながらの製法で和ろうそくを手作りし続けている「中村ローソク」の田川代表のトークイベントが「aeru gojo」で開催されました。作り手の話を直接聞き、実際に火を灯すことで、和ろうそくの置かれている現状や魅力について理解を深めることができました。

02 株式会社めい × 商店街

空き店舗のマッチング事業支援

京都でシェアハウスやビルのリノベーションを手がける「株式会社めい」。これまで商店街で商売をされてきた方の人柄や物語を伝え、新たな商売の担い手を発掘してマッチングするWebサイト「京都物語商店」を運営しています。

03 京都移住計画 × まいまい京都

移住希望者と空き店舗の接点づくり

移住希望者を応援する「京都移住計画」が、京都のまち歩きツアーを実施する「まいまい京都」と連携。京都への移住を考える参加者を連れて、空き店舗への企業誘致に取り組む北区新大宮商店街を訪れ、地域の交流スペース「TAMARIBA」や「Dari K」を訪問しました。

04 Design week Kyoto 2016 × 京都のものづくり

**オープンファクトリーでの
イノベーションの創造**

2016年から工場開きイベントを開催。京都のものづくり現場が期間限定でオープンし、次代の京都へつながっていく多様な人たちの交流とイノベーションのきっかけを生み出しています。

05 発酵食堂カモシカ × カンナチュール

缶詰技術による新商品の開発

「発酵食堂カモシカ」の人気商品「玄米甘酒」は、滋賀県産玄米と京都亀岡産の米麹だけで仕込む自家製の甘酒。自然派缶詰メーカーの「カンナチュール」との出会いから、小瓶詰めの商品が生まれました。

06 株式会社カスタネット × くまモン

© 2010 熊本県くまモン#K24477

**ポーチ入り防災グッズセット・
くまモンバージョンを開発**

京都を代表するソーシャルビジネス企業「カスタネット」が「防災意識を持ち運ぶ」をコンセプトに「ポーチ入り防災グッズセット・くまモンバージョン」を開発。売上の一部は熊本城復興に寄付されます。

07 京都市 × スターバックス コーヒー ジャパン株式会社

**地球温暖化対策における
スターバックスとの連携**

京都市と「スターバックス コーヒー ジャパン」がパートナーを組み、「京都らしいエコなライフスタイル」のアイデアを市民と共に生み出して世界へ発信する「YES, WE DO KYOTO!」プロジェクト。京都でさまざまなエコアクションが実践されています。

08 タイキッチン パクチー × 京都市立小学校

小学校で使用された食器をラオスで再利用

タイ料理レストランの運営などを行っている「タイキッチン パクチー」が、売上の一部を寄付し、ラオスの少数民族の村に小学校を建設しています。その小学校に、京都市内の小学校で使用されたアルマイト食器を送って、資源を再利用する取り組みが生まれました。

09 KUMIKI PROJECT × 一般社団法人RELEASE; × 株式会社ウエダ本社

起業家向け出店キットの発売

自らの創造性だけでビジネスを始められるPOPUP STOREキット「PLAY ON STAND」は、地域の木材を活用した組み立て式。初期費用の回収に追われることなく、どこでもお店を始められます。夢を追いかける起業家に向け、2017年度から販売がスタートします。

10 京都府中小企業診断協会 × イノベーション・キュレーター塾

**京都府中小企業診断協会の
機関誌での連載**

「京都府中小企業診断協会」の機関誌『診断京都』では、平成29年春号から、「イノベーション・キュレーター」に関する特集記事の連載がスタートしました。府内の中小企業診断士や他府県の診断協会・行政・支援機関などのもとに届けられています。

11 近畿経済産業局 × 近畿圏内の都市

近畿経済産業局内でのプロジェクト開発支援

地域ぐるみで持続的に新産業・新需要などを生み出すローカル・イノベーション・プロジェクト。ソーシャル・イノベーション・漢方・ファッション・サブカルなど、近畿経済産業局が多様なプロジェクトを掘り起こし、SILKも選定いただいています。

12 株式会社日本リモナイト × 公益財団法人京都高度技術研究所（ASTEM）

阿蘇リモナイトを活用した新規事業開発

熊本県の鉱物資源「リモナイト」の性質を活かした新規事業を検討するために、ASTEM内に事務所を開設。京都域内で古民家再生から地域活性化を図ろうと考える事業者とのマッチングを行い、シロアリなどの忌避効果に関する実証実験を展開しています。

13 KBS京都 × 社会的企業

KBS京都の番組による多数の紹介

KBS京都のテレビ「京bizX」やラジオ「妹尾和夫のパラダイスKyoto」などで、ソーシャルビジネスに取り組む企業をご紹介いただいています。写真は障がい者雇用に取り組む「NPO法人FDA」の成澤理事長が出演された時のものです。

14 日本政策金融公庫 × 京都府立図書館

京都府立図書館での創業セミナーの開催

2016年に開催したソーシャル・イノベーション・サミットでの出会いをきっかけに、図書館で創業セミナーを開催するという、ありそうでなかった取り組みが始まりました。

15 アジア・アフリカの女性社会起業家 × 京都の企業

**地域振興に貢献する
新興女性企業家フォーラムの受け入れ**

アジア女性社会起業家ネットワーク（女性の地位向上協会・リテラ）が運営する「Emerging Women Entrepreneurs Forum 2016」は、今後の社会のあり方について議論するため、沖縄・東京・京都で開催。京都の取り組みを共有したほか、「シサム工房」「Dari K」「NADELL」などの企業を訪問いただき、交流を深めました。

16 ミライ企業プロジェクト × 京都の企業

中小企業と若者のマッチング支援

企業規模の大中小といった従来の価値観ではなく、経営理念の実現を通して未来を創る「ミライ企業」が掲載された『ミライ企業図鑑』。関西を中心に20校、2,500名に授業を届ける当冊子は大阪から全国に広がり、京都での発行にむけた対話がスタートしています。

17 ル・クロ ラボ × 二条城

二条城オリジナルマカロンの製造・販売

フレンチ・シェフの黒岩功氏が手がけ、ショコラを通して障がい者の雇用を創出する「ル・クロ ラボ」は、二条城オリジナルのマカロンを企画・製造しています。好調な売れ行きを見せており、コラボ案件も募集中です。

18 とろさば料理専門店SABAR × 京北出張所

鯖街道復活による京北の活性化への支援

昔、若狭から京に物資が届けられた「鯖街道」のひとつで京北を通った「西の鯖街道」。とろさば料理専門店SABARを手がけ、水産資源の保全にも取り組む「株式会社鯖や」と、鯖文化で地域活性化を目指す京北地域のコラボが進んでいます。

19 株式会社京都紋付 × IKEUCHI ORGANIC株式会社

伝統の黒染で生み出された深黒のタオル

第1回「これからの1000年を紡ぐ企業認定」の認定授与式で出会った2社。「IKEUCHI ORGANIC」の想いに共鳴された京都紋付の荒川社長が「一緒に染められたら」とメッセージをくださったことがきっかけで、技術的に困難だった深黒のタオルが誕生しました。

20 NPO法人FDA × 株式会社食一

珍魚流通の業務を就労支援の場に

障がいや社会的状況によって「働きづらさ」を抱える人々をサポートする「NPO法人FDA」が、テレ・ワークによる就労支援トライアルを、「食一」と協力して実施。珍魚を流通させる業務のアウトソーシングが可能かどうか、新たなトライアルになりました。

1KM

あなたの選択が世界を変える！

ソーシャル・イノベーションを始めよう。

テクノロジーの進化によって、良くも悪くも容易に世界とつながってしまう現代。世界の健やかな営みも、悲しみの出来事も、実は私たちが暮らしやビジネスを通じて行う「日々の選択」によって生まれている場合があります。言い換えると、私たちが「健やかな物事」を日々選ぶことができれば、世界も健やかな状態になっていくはず。一人でも多くの人が一つでも多く、そんな「健やかな選択」に辿りつきやすくなるために、読むべき本、見るべき映画、誰もができる日々のアクションを、SILKのメンバーに聞いてみました。

＼ソーシャル・イノベーション最前線にいるSILKのメンバーに聞いた／

おすすめ本と映画とアクション

BOOK　MOVIE　ACTION

井上 英之さん
アドバイザー

一般社団法人INNO-Lab International共同代表／慶應義塾大学大学院特別招聘准教授

『スタンフォードの脳外科が教わった、人生の扉を開く最強のマジック』
ジェームズ・ドゥティ
プレジデント社 〔2016年〕

人生にもソーシャル・イノベーションにも大切なことがいっぱい詰まった、涙が出るくらい素敵な本当の物語。誰にも関係ある、自分と世の中とのつながり方。みんなに読んでほしい一冊です。

©Ciel de Paris productions 2010
発売元：ファントム・フィルム
販売元：アミューズソフト
税込価格：3990円

「ちいさな哲学者たち」

フランスの幼稚園で始まった、「哲学のじかん」。愛って、家族って… 始めはとまどいながらも、異なる意見に耳を傾け、生き生きと語りだす子どもたち。子どもの、そして人間の素晴らしさ・可能性に心がふるえます。

「今日よかったこと」を妻と順番に話す♪

桜井 肖典さん
コミュニティ・オーガナイザー

一般社団法人RELEASE: 代表理事／RELEASE;®ファウンダー

『詩を書く―なぜ私は詩をつくるか』
谷川 俊太郎
思潮社 〔2006年〕

言葉という最も身近にある人工物を、僕たちは知らないのかもしれません。詩人による言葉についての数々の考察は、言葉の可能性を開き、自分の内に静かな革命を起こします。

©2014 BBP IMITATION, LLC

『イミテーション・ゲーム/エニグマと天才数学者の秘密』

既存の価値観では評価すらできない、真の革新とはどういうものか。「あなたが普通じゃないから、世界はこんなに素晴らしい」という台詞が普通になる世界を願って。

課題ではなく、可能性に目を向け解決ではなく、願いを叶える。

髙津 玉枝さん
イノベーション・キュレーター塾 塾長

株式会社福市 代表取締役社長

『能はこんなに面白い！』
内田樹　観世清和
小学館 〔2013年〕

能楽は600年以上続く日本最古のサスティナブルな芸能。普段、接点がないものや理解しにくい（経験がない）ものをひも解いてみると、イノベーションに必要な発想につながります。

©TRUECOSTMOVE

『ザ・トゥルー・コスト』

私たちが日々身に着けている洋服が、世界の環境・人権などにどんな影響を与えているのかを、目を覆いたくなるほど赤裸々に描いた ドキュメンタリー。常に世界を意識することが大切です。

まず行動、そして心と体で感じてみる。

太刀川 瑛弥さん
クリエイティブ・ディレクター

NOSIGNER 代表

『生きのびるためのデザイン』
ヴィクター・パパネック　阿部公正訳
株式会社晶文社 〔1974年〕

売上のためにバリエーションをつくる現代の商業主義化したデザインを痛烈に批判し、デザインが本来はどんな社会的な大義を持っているかを問う、デザイナーにとっての伝説の書。必読です。

『不都合な真実 スペシャル・コレクターズ・エディション』
DVD：1,429円+税
発売元：NBCユニバーサル・エンターテイメント

『不都合な真実』

アメリカ元副大統領のアル・ゴアが人生をかけて取り組む、地球温暖化と二酸化炭素削減へのチャレンジ。美しいインフォグラフィックと徹底的なリサーチが、デザイナーにも参考になる作品です。

あらゆるものは、今よりもっとよくできる、と信じる。

「サスティナブルカンパニー」にシフトするための

SILKのサポート

利益獲得に傾倒した経営から社会に配慮した持続可能な経営へのシフトを目指している方、事業で社会的課題の解決に取り組みたい方、小さなことでも「健やかな未来」へつながるアクションを始めたいといった方などをSILKはサポートしています。

ヒアリング

今考えていらっしゃる事業や取り組みなど、現在の状況をお聞きし、ベストな窓口をご提案します。まずはご連絡ください。

川勝　美智子
チーフ・コンシェルジュ

杉原　恵
コンシェルジュ

DATA

SILKへの自治体や大学などの視察数と事業者からの事業相談数（2015年4月～2017年3月まで）

視察数…… **21** 件

事業相談数…… **95** 件

スタンフォード大学からも視察いただきました。

キュレーション

コンサルティング

経営理念を明確にし、理念が投影された事業を組み立てていきます。事業で実現したい未来を重視した伴走型コンサルティングで、未来志向の価値を引き出します。＊要件あり

秋葉　芳江
イノベーション・キュレーター

コンサルティング例

京都オリエンテーション

個別相談で事業の軸を定めることができました。事業で何を実現したいのかを整理して可視化する作業をしたことが、迷ったり不安な時の支えになっています。

京都オリエンテーション
西　恵味さん

森の案内人

自分の事業はもちろん、人生にとっても非常に大きな恩恵をいただきました。僕の話も丁寧に聞いていただき、それがどういう具体性を持ち得るのか、的確なアドバイスをいただきました。

森の案内人
三浦　豊さん

コーディネート

対話を通じて、新たな価値の発見や、発想を拡げるお手伝いをし、叶えたい未来を実現するために、人や組織をつなぐコーディネートを行います。

山中　はるな
イノベーション・コーディネーター

田中　慎
イノベーション・コーディネーター

パートナーとのサポート例

「中信ビジネスフェア2016」で認定企業ブースを出店

「これからの1000年を紡ぐ認定」認定企業のBtoBを加速させるため、京都中央信用金庫さまから5社の出店枠の提供を受け、共同で企画・実施。多くの方が来場されました。

支援ファンドから1千万円の投資が決定

「京都市スタートアップ支援ファンド」から、「株式会社坂ノ途中」に対して1千万円の投資が決定し、投資が実行されました。

プロジェクトマネジメント

さまざまなパートナーと共に、持続的な発展のために取り組むプロジェクトのマネジメントをお手伝いします。ご予算に応じて、プロジェクトの提案もいたします。

前田　展広
イノベーション・コーディネーター

パートナーとの連携事業例

「NEXT-K lab」
株式会社大丸松坂屋　京都店

パートナー｜一般社団法人 RELEASE;

SILKの外部パートナーとの事業開発型ワークショップを実施。事業哲学である「先義後利」を基にした対話の場を広げています。

「素材から学ぶくらしの学校」
京都市消費生活総合センター

パートナー｜NPO 法人 cobon / Life Seed Labo

「京都市ソーシャルプロダクトMAP」に掲載される事業者との関係性をもとに、消費者向けのエシカル消費教育事業を共同で企画・運営。2017年は小学生向け講座などを開催しました。

ORGANIZATION 組織概要

CORPORATION 運営事業者

名称｜公益財団法人京都高度技術研究所(ASTEM)
設立｜1988(昭和63)年8月9日(京都府知事認可)
理事長｜西本清一
所在地｜〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134番地
担当部署｜京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)

Email｜silk@astem.or.jp
TEL｜075-366-5527　FAX｜075-366-5529
URL｜http://social-innovation.kyoto.jp/

ACCESS アクセス

[電車]
JR嵯峨野線 丹波口駅より徒歩5分
阪急西院駅または大宮より徒歩15分
[バス]
市バス、京阪京都交通バス 京都リサーチパーク下車、
京都バス 五条千本 下車 徒歩2分

MEMBERS メンバー

大室　悦賀	所長 / 京都産業大学経営学部 教授
太刀川　瑛弼	クリエイティブ・ディレクター / NOSIGNER 代表
高津　玉枝	イノベーション・キュレーター塾 塾長 / 株式会社福市 代表取締役(Love&sense)
井上　英之	アドバイザー / 一般社団法人 INNO-Lab International 共同代表 / 慶應義塾大学大学院特別招聘准教授
桜井　肖典	コミュニティ・オーガナイザー / 一般社団法人RELEASE; 代表理事 / RELEASE; ©ファウンダー
兼松　佳宏	研究員 / 勉強家 / 京都精華大学人文学部 特任講師
孝本　浩基	事務局長 / 公益財団法人京都高度技術研究所 地域産業活性化本部 本部長
秋葉　芳江	イノベーション・キュレーター　/ Office SPES 代表
前田　展広	イノベーション・コーディネーター / 前田展広事務所 代表
山中　はるな	イノベーション・コーディネーター
田中　慎	イノベーション・コーディネーター / 税理士法人田中経営会計事務所 税理士
赤司　研介	エディター・ライター /　SlowCulture 代表
川勝　美智子	チーフ・コンシェルジュ
杉原　恵	コンシェルジュ

PARTNERS パートナー

「これからの1000年を紡ぐ企業認定」や「社会(化)見学」など、SILKと連携・ご協力いただいている企業・組織のみなさま〔2017年3月現在〕

[京都]
京都府 / 京都商工会議所 / 京都銀行 / 京都信用金庫 / 京都中央信用金庫 / 日本政策金融公庫 / フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 / 京都試作センター株式会社 / 株式会社ウエダ本社 / 一般社団法人京都ソーシャルビジネス・ネットワーク / 公益財団法人信頼資本財団 / 一般社団法人京都経済同友会 / 京都中小企業家同友会 / 一般社団法人京都府中小企業診断協会 / 京都CSR推進協議会(CSR京都)/ NPO法人ミラツク / 一般社団法人リリース / 京都移住計画 / ソーシャルプロダクトを普及させる会 / 株式会社坂ノ途中 / 有限会社シサム工房 / 株式会社食一 / Dari K株式会社 / 株式会社アラキ工務店 / NPO法人テラ・ルネッサンス / 株式会社フラットエージェンシー / 株式会社ヘルプ / 京都大学経営管理大学院 / 同志社大学ソーシャルウェルネス研究センター / リトルノ / 公益財団法人京都市ユースサービス協会 / 株式会社大丸松坂屋百貨店 大丸京都店 / 傍楽 / 株式会社ヒューマンフォーラム / 一般社団法人FUKURO(ル・クロ ラボ)

[秋田]
NPO法人cobon
[茨城]
有限会社モーハウス
[千葉]
株式会社寺田本家
Life Seed Labo
[東京]
株式会社和える
NPO法人グリーンズ
株式会社サステナ
株式会社SooooooS.カンパニー
READYFOR株式会社

[神奈川]
NPO法人FDA
鎌倉投信株式会社
日本理化学工業株式会社
NOSIGNER
パタゴニア日本支社
[福井]
株式会社兵左衛門
[岐阜]
株式会社サラダコスモ

[滋賀]
油藤商事株式会社
株式会社オヤノミカタ
[大阪]
株式会社福市
[兵庫]
株式会社エスコアハーツ
[島根]
中村ブレイス株式会社
[徳島]
NPO法人グリーンバレー

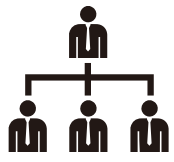
[愛媛]
IKEUCHI ORGANIC株式会社
スバル株式会社
[福岡]
合鴨家族古野農場
吉原住宅有限会社
有限会社ラピュタファーム
[熊本]
水俣市

次の様な方々も、お気軽にご連絡ください。 silk@astem.or.jp

**京都支社や
フラッグショップを
出店したい市外事業者さま**

**移住・マイクロビジネス・
パラレルキャリアなど
自分らしく生きたいという方**

**第二創業を迎え、
地域との関係を再構築したいと
お考えの経営者の方**



**これからの社会に必要な
企業の組織開発を
検討されている方**

発行｜京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)　プロジェクトマネージャー｜前田 展広(前田展広事務所)　編集・執筆｜赤司 研介(SlowCulture)　アートディレクション｜太刀川 瑛弼(NOSIGNER)　デザイン｜半澤 智朗(NOSIGNER)　撮影(対談)｜望月 小夜加
印刷｜株式会社シーズクリエイト　発行日｜平成29年3月31日
＊本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください。
＊本誌データは平成29年3月現在のものです